



社会福祉法人

わらしべの里通信

新緑に芽吹き始めた我が仲間達

第4号(通巻18号)

発行日2004年5月1日

～グループホーム開設に向けて～ ～社会生活を望む仲間達～

～G.H学習会を開催～

昨年12月16日、「わらしべの里グループホーム(G.H)」開設に向けた事前学習会が開催されました。

学習会の参加者は、保護者会から代表者4名と施設長を含む職員8名の計12名で開催されました。

今回開催された学習会の目的は、わらしべの家が開所(注: 栃木子どもの家から数えて)されてから早24年目に入り、その頃からの利用者は既に50歳代半ばに達し、その親もまた高齢になり、親御さんによる子供の養育が困難になった際の子供の生活場所を確保する必要があるなど、主として“わらしべの家の現状と今後のグループホームの必要性”について、参加者同士で熱心に意見交換を行いました。

また、今回の学習会参加者を中心に、「わらしべの里グループホーム設立準備会」が発足されました。今後、わらしべの里グループホームを平成17年4月開所に向けて関係者が一丸となり、展開していく予定です。

～チャリティーコンサート開催～

学習会から約1ヶ月後の1月24日(土)、栃木市文化会館にて、日本を代表するギタリストである「寺内タケシ」さんをお迎えし、「第1回わらしべの里チャリティーコンサート“寺内タケシとブルージーンズ”」を野尻幹雄さん代表の実行委員会の主催で開催されました。

「わらしべにグループホームを！」と願う保護者の期待に答えるかのように、約800名余りのお客様に来ていただき、寺内さんの迫力あるギター

演奏に酔いしれました。

今回のコンサートで寺内さんが披露した曲は、「夜空の星」や「君といつまでも」、「ソーラン節」など全30曲を演奏しました。「生の演奏は迫力があり、とてもすごかったよ」と興奮の感想を述べる仲間の声もありました。

コンサートも終盤に近づき、寺内さん達の演奏をバックにわらしべの仲間たち全員で“世界に一つだけの花”を歌い、会場は優しい空気に包まれ割れんばかりの拍手の中コンサートは終了しました。(渡邊、松浦)



～収益金の寄付を受ける～



2月12日(木)にコンサート主催者である野尻幹雄様より、わらしべの里へコンサートの収益金のご寄付を頂きました。寄付金額は「**752,153円**」でした。

寄付金の贈呈に際し、わらしべの里を代表し金坂義江理事長が野尻幹雄様より受け取り、施設整備積立金に繰り入れられました。

今回の寄付金受領についてある仲間は、「仲間が社会という舞台の上に立ち、地元の人々と交流を通して住むことができたらいいなと思っています。」という感想を述べました。

～口メモ

「グループホームとは？」

一般の住宅地の中で通常の住宅で共同生活を営む数人の知的障害者に対し、日常生活に必要な食事提供、金銭管理など

おさんぽ

おはよう、おはよう!!と始まって、わらしべの里の一日は「アツという間」に夕方4時の、お別れの時間になる。

仲間と療育犬のチップ、そして職員たちとの交流の深さを感じる。その仲間たちが1月24日、栃木市の文化会館の大ホールの舞台上上がった。

寺内タケシのロックバンドの伴奏で「世界にひとつだけの花」を全員で声たからかに、手振りつきで歌いきったのである。

会場いっぱいのお客様がニコニコしながら、手拍子で応援している。肢体や知的に障害をもつ25人の仲間たちを心から受け入れ、励ましていただいている大感激の場面であった。

「寺内タケシとブルージーンズ 第1回わらしべの里チャリティーコンサート」を主催された実行委員会の方々に心からの感謝と敬意を表させていただきます。

(金坂)

新年のわらしべの表情

1月

長いようで短い冬休みもあっという間に終り、新しい気持ちで新年の仕事を始めるかのように仲間たちは元気よく出勤してきました。



誰に指示される訳でもなく、お互いがお互いの顔を合わせると自然に、「新年、明けましておめでとうございます」と挨拶をする。皆が会う人会う人に挨拶をするものだから、あちらこちらで新年の挨拶が聞こえ、わらしべ全体に新年の気持ち良い空気が満ちていました。

初日は仕事をせず作業室に集まり、仲間一人一人が今年の抱負や目標を発表し合ったり、施設長のお話を聞いたりなど新たな気持ちを共有する時間を過ごしました。

今年の抱負を一部紹介させて頂くと、『お線香やさをり織りなど一生懸命に頑張っていきたい』という仕事に熱心な意見があったり、『野球をもっとやりたい』や『皆ともっと仲良くなりしたい』などレクリエーションや人間関係に関するユニークな“抱負”が沢山ありました。

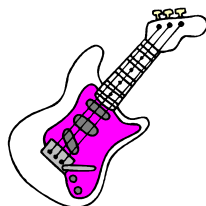
一通り抱負が終わった後、食堂に移動しお菓子を食べながら、大晦日に放送された「NHK紅白歌合戦」のビデオを観ることになりました。

なぜ?とお思いになるかもしれませんが、別に紅白を観られなかった人のためではありません。理由は、紅白で大トリを取ったSMAPが歌う“世界に一つだけの花”を、皆で覚え踊れるようになること!というのが目的です。

それは、24日(日)に開催される「第1回わらしべの里のチャリティーコンサート(1面関連記事)」の中で、この“世界に一つだけの花”を日本を代表するギタリスト『寺内タケシ』さんと一緒にステージで歌うためだったからです。

本番までの時間も僅かとなり、かなりハードな練習が続きましたが、曲中、木村拓哉さんがウインクしたのを見て、男性の職員と仲間の中で「誰がウインクしようか」という話題も出たりと、大変ながらも楽しく本番に向けた練習を行いました。

(渡邊)



さをり織りを通じて

~職員生活三年目の声から~

『さをり織り』というものがどんなものなのか、それは実際に体験して経験してみないと分からないかもしれません。

わらしべの里では、数年前から『さをり織り』を通じて“自分で物を創るといふ喜び”、“自分流といふものを探す楽しみ”を『さをり織り』で見つけるため、現在も毎日続けて織っています。

最初は、織り機を目の前にして自分にできるのかと不安になったり、難しいというイメージを持ってしまっ



世界に一つだけのさをり織り

もいました。でも、今『さをり織り』の世界を理解して、自分の好きな様に自由に織るといふことを学び、一つの物を創っていく楽しさを体験しています。

教える立場としては、ほとんど教えることはないと言っていいくらいの必要のない立場です。基本的な操り方は知ってもらいますが、織る方法などは、自分の好きな糸を好きなように織る。失敗はない、上手、下手もない。糸がほつれようが緩もうが手順を間違えてもそれが面白くなって自分の個性になる気がします。

その個性を大切に、一人ひとりが、『さをり織り』が楽しく興味を持ってできることなんだと気づき、その気持ちをたくさんの人に知ってもらうため、物を創り、今も織り続けています。

そういった人たちの作品を大事に、これからもわらしべの里では、色々な物を創り続けていきたいと皆思っています。(荒川)

仲間達で作った『さをり織り』です。わらしべの里にて販売をしていますので、お土産に一ついかがですか。





わらしべでは公園スポーツがブームだ!!!

晴れた日はスポーツをしよう

「三振!!惜しいけど次のバッターいらっしやい」
「シュートアウト・・・、入れっ!」。

青空の下、スポーツを楽しむ仲間が響くさつき公園。金曜の午後のレクリエーションでは、これまではハンカチ落としやカラオケ大会を行うなど、どちらかといえば室内での静かな活動が多かったのだが、2年前からはミニボーリング大会を開催するなど“お手軽スポーツ”を行うことが少しずつ流行り始めた。

昨年春頃、昼休みにスポーツ好きな仲間が集まり、道路で野球やサッカーを楽しんでいたが、大変危険でもあり、また近所に迷惑でもあるため、屋外活動について仲間の会議を開き名案を協議することになった。協議の結果、「晴れた日は近くのさつき公園へ出かけ、野球やサッカーなどミニゲームを行い、スポーツの爽やかな汗を流そう!」という意見にまとまった。

去年は、寒風吹きぬける12月末まで仲間達はスポーツを楽しみ、「来年も公園でスポーツをして遊びたいね!」という気持ちを口々にし、2003年の公園スポーツは幕を閉じた。

そして、長い冬??も明け、3月5日から待望の『2004年公園スポーツ大会』が開幕したのだ。「この細かい砂の感触、なつかしい~」とつぶやく野球大好きな荒川支援員。3ヶ月ぶりの公園スポーツとあり、この日を待ちわびた仲間と職員達は、靴で砂の感触を確かめながら公園スポーツの新シーズンに期待を膨らませた。

冬眠から目覚めたアスリート達は、ウォーミングアップのため、まず体をほぐし慣らすことから始める。だが、オフシーズン中の2ヶ月の間もアスリート達は無駄な時間を過ごさなかった。室内レクリエーションでは風船バレーを楽しみ、



パスをガッチリと受け止めるぞ!!

体を鍛え感覚を磨いていたのであった。

そのため、短時間でウォーミングアップが完了し、即実践に入ることができた。

開幕の日に特に盛り上がりを見せたのは、昨年同様「野球」だ。

また、このスポーツブームをきっかけに、『障害者文化祭・カルフルとちぎ ~こころの集い~』では、“テツandトモ”さんの大ヒット曲である「なんでだろう音頭」に合わせ、野球をテーマにした寸劇を公演するなどの勢いとなった。(5頁記事参照)

『公園スポーツ大会』のわらしべルールは、「ゲーム中でも疲れたら自由に休んでいい」というものだ。

3アウトとったら相手のチームと守備を交代するのが公式なルールだが、わらしべ流は楽しくやるために投げたい人が投げ、打ちたい人が打つというものだ。生まれて初めてピッチャーを担当する仲間は、「投球は兄に教えてもらった。技術的には未熟だけどキャッチャーのサインを信じて投げています」と話す。

「ストン、ストン」、いいテンポでストライクが入っていたと思えば、バッターの背中に抜けるような球を投げるときもあるが、「痛い!危ないけど、楽しいから良い」と相手を許す心も養うわらしべ野球。この光景を見て、わらしべの里で野球を知ったというある支援員は、「わらしべならではの姿でいいね」と高評価。

打つか、打たれるか。緊張感を味わいながら、でも楽しく、そして少しずつ本格派に近づけるように一步一步だが前進している。もちろんサッカーの方も盛り上がっている。「皆さんも『さつき公園』に来た際は、是非立ち寄ってみては?」と語るのは、巨人の背番号10をこよなく尊敬し、わらしべ野球のキャッチャーを



危険球にドキドキするバッター

運動会、球根植え、親子旅行… 親睦を深めた 2003年秋

10月 交流会で流した汗

秋はスポーツの季節ですね。10月2日(木)、栃木市障害者福祉施設協議会(栃障協)主催の交流会が開催され、昨年同様、栃木市総合運動公園の体育館にて参加者200名が集まり大運動会が開催されました。

今年で4回目を迎えた本交流会は、新たに「必殺!皿返し」という種目が加わりました。このゲームは、紅白に塗られたお皿を規定時間内でお互いに皿をひっくり返し合いながら最終的に紅・白の数が多きチームが得点するというゲームです。一見簡単そうに見えますが、実は結構難しく白熱するゲームでした。その他、「風船バレー」や「玉入れ」など7種目が行われました。参考までにわらしべは紅チームで、接戦の末、紅組が勝利しました。



秋・チューリップの球根植え

10月7日(火)、もう季節は秋だというのに、真夏のような陽射しが燦爛とふりそそぐ中、仲間全員で保護者からお借りしている畑へ行ってチューリップの球根を植えました。「(来年の春を)手軽に春を楽しめたらいいねえ」と、ある仲間はそうつぶやきながら畑に向かいました。

畑に行くのは、8月にスイカの成長した姿を見に行った以来2ヶ月ぶりであり、久しぶりに畑に来てみて、皆とても大はしゃぎしながらシャベルで土を掘り返し、農作業指導の荒川様の的確な指示の下、チューリップの球根を一つ一つ丁寧に一定の間隔を空けながら植えました。

全ての作業を終え、わらしべに帰る車の中で、「来年の春にはどんなチューリップが咲くのか、今から楽しみだね」と、車内は早くも春の訪れに期待を寄せていました。



～心を潤す水遊園～

ハイテク満載のツインリンクもてぎ

2003年親子旅行

今年も10月24日(金)～25日(土)の一泊二日で、恒例の親子旅行に行ってお参りました。

行先は、「湯治と日本の工業技術を巡る旅・那珂川苑～ツインリンクもてぎ」という企画で、八溝山系へ旅をして参りました。

初日の行先は湯津上村にある「なかがわ水遊園」。ここは、清流「那珂川」をテーマとした水と緑の体験ゾーンで、鮎や山女、岩魚などといった那珂川に棲む魚を中心に、日本や世界の淡水魚や珊瑚礁に棲む魚の水族館があります。美しい魚たちに囲まれ心潤す素敵なひとときを過ごしました。



水遊園の次は、「いわむらかずお絵本の丘美術館」へ行きました。ここはその名のとおり、絵本作家の「いわむらかずお」さんの作品が数多く展示してあります。緩やかな丘の上に自然を生かした美術館は、来る人すべてが優しさに包み込まれるような感覚になってしまいます。

そして、あっという間に1日目も過ぎ、今回の旅の宿である、「栃木県障害者保養センター那珂川苑」に着き、ゆったりと湯に浸かり八溝山系の温泉を満喫しました。

2日目は、今回の旅のハイライトでもある「ツインリンクもてぎ」です。ここでは、HONDAが誇るハイテックロボット「ASIMO」のショーを見たり、日本の自動車の歴史や工業技術の発展を知ることができたりなど、体験しながら楽しめる企画が多数ありました。でも、仲間の多くは、サーキットを爆音を立てて走り去る「レーシングカー」に夢中になっていました。日頃、見ることのできないレーシングカーの迫力は満点!。興奮の冷めやまぬまま家路に着きました。





わらしべ情報産直便

カルフルとちぎ2003

11月21日～22日の2日間、宇都宮市で栃木県障害者文化祭「カルフルとちぎ2003・こころのつどい」が開催され、わらしべの家は、21日(金)に参加しました。

今回は、この年大ブームとなった「テツand トモ」さんの“なんでだろう音頭”のダンスに寸劇を加えるという一風変わった、わらしべオリジナル『わらしべ版なんでだろう音頭』というタイトルでした。



テーマの選定は仲間の会で決め、脚本はパソ工房の小谷亮太さんが作りました。

ストーリーは、『仲間達がカルフルとちぎの練習をしているのに、一部の仲間が練習をサボり草野球に夢中になっている。そんな時、打った球が大きくそれてダンスの練習している仲間当たる。双方の仲間に緊張が走り、サボっている人たちに非難の目が向けられた。だが、練習をしているある仲間が、「みんなで一緒に踊ろう」と優しく声をかけ、サボっていた人たちも反省しながらみんなと一緒にダンスの練習をする』という内容でした。

この『わらしべ版なんでだろう音頭』は、夏から毎朝練習をやってきた皆の熱意がこもった作品です。また、仲間達の年に一回の晴れ舞台なので、みんな一生懸命頑張りました。

お餅つき大会

12月18日(木)、昨年好評だった「餅つき大会」を今年も実施しました。ほかほか蒸かしたもち米を臼の中に



入れ、程よく濡らした杵でペタンペタンとつき、出来あがったお餅をあんこやしょうゆのつけ焼きなどにして、みなでおいしく頬張りました。

そ～れ ペタンペタン!

クリスマス会

12月25日はクリスマス会を行いました。今年はマロニエ医療福祉専門学校から3名、中央福祉医療専門学校から1名、合わせて4名の学生さんに来て頂き仲間達と一緒にクリスマス会を楽しんで頂きました。



また、今年にはわらしべのために「うづま川きよし」さんが慰問に来られ、ギター演奏で「ホワイトクリスマス」や、数々のクリスマスソングを演奏されました。また、「麦畑」の曲を男の声と女の声を交互に変えながら歌った時には、みな、涙を流しながら大笑いするなど



熱唱する“うづま川”さん

楽しい曲を披露され素敵なクリスマス会となりました。ところで皆さんは「うづま川きよし」さんをご存知ですか?。「うづま川」さんの本当の姿は、市内で歯科医院をされている「関根潔先生」です。

そして、会の最後には、仲間達が1年間の感謝の気持ちを込めて、金坂施設長に心のこもったクリスマスカードをプレゼントしました。これにてわらしべの一年の幕が無事に閉じることとなりました。

2月 FEBRUARY

新年2ヶ月目の2月2日(月)には“キグレ Newサーカス(下野新聞社創刊120周年記念・社会福祉事業協賛)”を観覧してきました。

サーカスが始めると猿回しや、円球体の籠の中をバイク3台がクロスしながら走ったり、人が空を舞う空中ブランコなど、サーカスの楽しさと美しさと迫力満点のアクションに仲間達は興奮と感動に酔いしれた一日となりました。

また、3日には節分の日のイベントとして、全員で「鬼は外!福は内!!」と元気よく豆まきをしたり、13日(金)にはホワイトデーパーティーを行ったりなど、楽しい企画が盛りだくさんで目が離せない2月となりました。(渡邊)



☆ 仲間の声コ～ナ～ ☆

新企画 「仲間の声コ～ナ～」

記念する第1回目は、パソコン工房でインターネットやワープロソフトを使い仕事をされているK.Fさんが、日頃生活をして感じている自分の思いや願いを、作文や川柳にしたので、今回はこの作品を紹介させていただきます。



パソコンに向きあうK.Fさん

仲間川柳 1 1 1 新鮮流

憧れを 実現させたい 今の僕

いつまでも、こんな気持ちを持ちつづけたいと思いました。(20代女性)
素直な気持ちがよく表われていると思いました。(30代女性)

頑張れる 夢を一步でも 近づけたい

夢が着実に現実のものになっていることを予感させる作品。(20代女性)

がんばれよ おまえはやれば 出来る人

私自身、すごく励まされました!!ありがとうございます。(20代女性)
自分に向けて、また、周りの皆へも呼びかけている思い。(20代男性)

好きな人 見ているとおもい 頑張るぜ

素直で、とても素敵なお作品。すごく共感できる。(20代女性)

嬉しいが なんか心が 動揺する

人が持っている複雑な感情を的確に表現している。(20代女性)

父と母 倒れると困るな 子供達

親、家族愛、今の若者に必要な大切な気持ち。(20代男性)

頑張っ て 自分の体 動かしたい

もどかしい気持ちが、とても上手に表現できている。さらにヤル気も伝わってくる。(20代女性)

我自分 ファイトを出せば 歩けるぞ

頑張る気持ちがすごく熱く伝わってきます!!。(20代女性)

次号からも、わらしべの個性豊かな仲間たちの楽しい作品や声をみなさまにお届けいたします!。(パソコン工房一同)

僕の夢

K.F

僕は太地で生まれ名を「K.F」と名を付けられました。歩くのが遅く「障害児」になって、近辺にはうけつけられる所がなく宇都宮に引越しました。宇都宮に障害者をうけつけられる所があってその学校は「若草養護学校」といってその学校に行きました。そこにおもたい障害をもった人がたくさんいました。

そこに栃木市からくる「R.O」君がいました。R.O君と気持ちがあって大親友になりました。好きになのちゃた「H.N」ちゃんと言う綺麗な女性がいました。告白せず時がたちました。そこでは、いろいろな問題をやのちゃたと思います。

ケガしたりとかをやのちゃて自分で苦が残のちゃたと思います。俺が6年生の時、大平のじちゃんが危ないと聞いて大平に帰りました。そこで俺もパニックになのちゃてわかりませんでした。

そして中学校は野沢養護学校に大平から宇都宮まで通いました。そしてあそこに寄宿と言うのがあって寄宿に入りました。

そこにまた綺麗な人にあまく好きな人がいました。気合がいりチャレンジ精神を身に付けました。そして告白したらスゲー怒られ自信はいらなくなりました。無関心しても怒られ女の子はつよいなあーと思い平常がいいのが気づくのが遅かったからヤダァーと思い女運がないのかーと泣きました。

そして無事卒業し無事車(の免許)も取れたからよかったと思いました。

そして地元で就職が決まってうれしいと思ったら事故になちゃて頭がパーになちゃいました。うれしさも飛んでいちゃたからまた大泣きしちゃいました。

そうしても現在「わらしべの里」に来てうれしさがてできました。好きな人がいるから好きです。

(個性を尊重し原文のまま掲載させてあります)



パソ工房流コラム 身近なコンピューター

今回から4回連載(予定)の「パソ工房流コラム“身近なコンピューター”」の担当をさせていただき支援員の松浦と申します。

まず、今回のコラムを書かせていただく前に私の経歴を簡単にご紹介させていただきます。

私は、平成2年に宇都宮市にある私立高校の情報処理科を卒業後、コンピューター会社のカスタマ・エンジニア(保守技術者:コンピューター機器のメンテナンスをする人)として10年間働いておりました。

サラリーマン10年目にして福祉関係で働きたいと思い立ち、平成12年3月に会社を退職し、同年4月より福祉系専門学校に入りなおし、現在はわらしべの里の職員に至っております。

さて、今回の第1回目のテーマである「“デジタル”って何?」ですが、皆さんは“internet(インターネット)”や“IT(アイティー)”、“e-mail(イーメール)”や“CD(シーディー)”や“MD(エムディー)”という言葉聞いて何を連想されますか?。いろいろと連想されると思いますが、その答えの一つとして、「コンピューターやオーディオ機器」と思い浮かべるとと思います。他にも、“デジタル”という言葉思い浮かべた方もいらっしゃるのでは。

私たちの生活の中で、この“デジタル”というものは何かというと、“デジタル時計”や“デジタル計算機”があり、最近では“地上波デジタル放送”など“デジタル”というものがとても身近になってきました。

ちなみにこの“デジタル”という言葉「広辞苑」で調べてみると、『ある量またはデータを、有限桁の数字列(例えば2進数)として表現すること』と書いてあります。皆さん、お解かりになりましたか?。「う~ん??」という言葉が聞こえてきそうです。

では、「パソ工房流」に“デジタル”という言葉簡単!?にご説明させていただきます。

簡単に言うと“デジタル”とは「0と1の組み合わせで表すもの」です。つまり、「0100 1011

0011 1001...」など“0”と“1”という2種類の数字を組み合わせて表現します。例えば、「あ」という文字をコンピュータに理解させるといってもコンピュータは人間の言葉は理解できないので「あ」という文字は理解できません。そのためにコンピュータに文字を理解させるために一定の“言葉”というルールを決めておきます。例えば「あ」なら「0001」、「い」なら「0011」などと決めておきます。

この“0”と“1”の組み合わせで表す事を一般的には「2進数」と言い、この単位のことを「ビット」と呼びます。ですが、この「2進数」をここで説明することはとても大変なのでやめておきます。一般的に多くの“デジタル電子機器”はこの「2進数」を基にして動作しております。

この“デジタル”というものをもっと簡単に言えば、「YES・NO」や「ON・OFF」など『二つに一つで表現するもの』とだけ思えばわかりやすいと思います。

では、“デジタル”のメリットは何でしょうか。それは各種データ(音や色、文字など情報の総称を指す)を表すにはこの“デジタル”方式ならば簡単に出来るからです。「白・黒」や「はい・いいえ」のように『二つに一つ』なら割り切れるから、間違いもなく確実に表現できますよね。

もし、AさんがBさんに対し「白でもないし黒でもない」などと言っても、受け取る側のBさんは「どっち?」となりうまくAさんの意志が伝わりませんね。でも「白・黒」の“二つに一つ”というルールでやりとりすれば簡単にできるでしょう。もちろん、ルールを細かく設定すれば幅広く情報を表現することもできます。

ですから、この“デジタル”という方式は『情報を正確に表現』する際には最適なのです。もちろん、データを記録したり送ったりするのにも最適なのです。

以上、簡単ですが“パソ工房流”に“デジタル”というものの説明させていただきました。

次回は「デジタル電子機器とは」をお伝えします。

~今日のつぶやき~

『デジタル』というものは割り切れても、『人の心』というものはなかなか割り切れないものだなあ~...。(雅)



『わらしべの里通信』第4号 (通巻18号)
 発行元 社会福祉法人わらしべの里
 発行責任者 金坂 直仁
 編集者 わらしべの家パソ工房
 〒328-0011 栃木市大宮町2708-3
 電話 0282 27 1627
 Fax 0282 27 1675
 E-mail warasi-nk@cc9.ne.jp (事務所)
<http://www.cc9.ne.jp/~warashibenosato/>

栄養士の素直な「き・も・ち」

栄養士.N.Y

給食が始まり、早いものでもうすぐ1年が経ち、私達調理師班も徐々に慣れ、あの小さな調理室で毎日戦争を繰り広げている。戦車が突入しているわけでもないのに、炎が上がり焦げ臭い...というのは大胆すぎる表現だが近いものはある、かもしれない。しかし戦場と化しても花はある。

踏まれてもふられても強く咲く花と、白くはかなげな花。強く咲こうと思うほど、涙もポロリ...な時もあり、一方で、はかなげといっても、美しい花ほどトゲがある。そんな2人ががんばっている。そういえば、わらしべの調理員は、石川秀美にそっくりである。ちなみに、「自称・癒し系アイドルで癒し系栄養士」の容姿は皆様のご想像におまかせします。

だから告白しちゃいます。私はアイドルなので誰のものにもなりません(一人身の強がり)。そんなこんなで、そろそろ本題に入りたい所ですか前おきが、長いので、スペースが...
でも、強引に...。 本当の告白です。

「わらしべの仲間へ」

わたしたちは仲間... 大すきです。
 とってもとつてもとつても大すきです。

だからみんなも同じきもちでいて下さい。新婚さん気分で、これからも愛いっぱい、給食作ります
 だから、お野菜も残さず食べて下さいね」
 癒し系栄養士と石川秀美似より

ということて、私情もちらほらありましたが告白を終わりにします。

久しぶりの告白に、胸キュンドキドキの調理班でした。

平成15年9月1日

「なかまのみなさん、ご家族のみなさん、今日は!!」

- 次の目標は、グループホームの開設を -

昨年は、わらしべの家の関係者はもちろん、社会福祉法人の役員と地域のみなさんに支えていただいて、「認可施設」第二年目の運営も順調にすすめることができました。心から感謝いたしております。

本年は、昭和55年に障害者福祉作業所として、わらしべの里の運営が始まってから数えれば、24年目に入ります。このころよりこの「わらしべ」に通っている仲間の中には50歳前後になり始めている人もいます。そのご両親は80歳近い方もおられて、なかまを家で世話していたくのは大変になりつつあります。

そこでウイークデーの昼間は、これまでどおりわらしべの家に通い、夜はなかまの4人と一緒に暮らします。「世話人」と呼ばれる職員一人が、配置されています。土曜・日曜だけ自分の家族の家に帰り、交流することができます。このような「グループホーム」をつくる必要性が高まってきています。これは平成15年の4月現在で、栃木県内で63箇所もできています。わらしべの里には「グループホーム開設準備会」が、施設と利用者の親たちでできていて、どんな形と内容のグループホームが良いのか、勉強会が始まっています。これを積み上げて、わらしべの家を利用されている仲間の親御さんが安心できるものを創りあげたいものです。

このグループホーム作りの資金のために、今年の一月に「寺内タケシとブルージーンズ」のチャリティ公演が、栃木市文化センターで行われました。わらしべの家の親の会の会長の野尻幹雄さんが、個人の立場で実行委員会をつくって開催していただいたものです。会場は大ホールで、ほぼ満員。これの純益75万円余の全額を寄付していただいています。

このことも広く皆様にお知らせをして、心からのお礼と感謝をお伝えいたします。

社会福祉法人 わらしべの里
 理事長 金坂義江

- 編集後記 -

3月の年度末までに発行を予定しておりましたが、もう5月...。あっという間に締め切り日を2ヶ月も過ぎてしまいました。ちなみに、今回のわらしべの里通信は秋冬合併号でした。大変遅くなりましたが、パソ工房の総力を上げなんとか完成しました。今度こそは発行期限に間に合うよう努力したいと思いますので、これからも「わらしべの里通信」を宜しく願います。(編集長：渡邊)

スポーツに積極的な今回の紙面で、スポーツに積極的な仲間の様子が伝わったでしょうか。読者の皆様とスポーツをしたいので、さつき公園でおまちしております。(小谷) やっと終わったー!。とっても疲れたあ～...(X_X)(雅)